

2018年3月入職

えぐちなおみ
江口直美

キャリアを重ねたその先にある、さらなる進化のために

日々の積み重ねがあるからこそ、生まれる気付き

幼少の頃、看護師と保健師を兼任していた大祖母と過ごすことが多く、働いている姿を日常的に見ていました。医療モノのドラマやドキュメンタリーもよく観ていて、保育園の頃に「将来の夢は？」と聞かれたときには、「看護師さん」とすでに答えていたことを覚えています。子どもの頃の夢は大人になるに連れて変わっていくものですが、私は年齢を重ねてもブレませんでした。看護師として働いていることは、私にとってごく自然なことであり、他の職業に移りしたことは一度もありません。

やりがいを感じている理由のひとつに挙げられるのが、患者さまとの会話を楽しんでいることです。なるべく話をすることが信頼関係の構築につながると思っています。患者さまの方から話しかけやすい雰囲気を出すために、いつも笑顔であることを心がけています。普段から会話を交わしていると些細な変化が分かるようになり、そこから症状の前兆を読み取れることも少なくありません。今日は少し表情が暗い、今日は言葉数が少ない。そんな気付きが生まれるのは、日々のコミュニケーションの積み重ねがあるからこそだと思っています。

正しいことを正しく知れば、自分の進化が加速する



思いやりエキスパートの研修を受けたとき、正直に言うと「ここまで接遇に力を入れなくてもいいのではないか」と思いました。善仁会グループ外のクリニックであれば、事務や受付のスタッフが習得するようなスキルにも注力していたからです。私は患者さまに応じてフランクなお付き合いをさせていただくことが多いのですが、そのスタイルが硬くなってしまうのではないかと懸念もしました。しかし、接遇のスキルを向上させることは、ビジネスパーソンとしては確実にプ

ラスなことです。クリニックという場所から視点を上げ、一般社会という中で自分自身を捉えたとき、正しい作法や言葉遣いを正しく学ぶことは必要だと感じるようになりました。キャリアを重ねるとスタイルはある程度固まりますが、そこには良い面も悪い面もあります。会話をフレンドリーに楽しむのは私の特長ですが、現状に満足しては成長は望めません。

キャリアを重ねてからも、知らないことを吸収できるチャンスを提供してもらえる環境にいられるのはありがたいことだと思います。これまでの自分らしさを大切にしつつ、そこに新しい要素を取り入れながら、自分のスタイルをさらに進化させていきたいと思っています。



患者さまの穏やかな笑顔が、安心して暮らせるよう、
笑顔で思いやりのある看護を目指します
江口直美